

各資金調達手法の特徴

資金調達方法	① 緊急性	② 金額規模	メリット	デメリット	備考
銀行融資	<ul style="list-style-type: none"> 審査に時間がかかり(2週間～1か月)、入金まで2～3か月かかるケースがある 	<ul style="list-style-type: none"> 案件に応じて金額の相談可能 	<ul style="list-style-type: none"> 利用限度額が大きく、金利も低い(0.3%～3%など) 他社の紹介や銀行のサポートも受けることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 時間がかかる 担保等が必要 	<ul style="list-style-type: none"> * 都市銀行、地方銀行、信金で金利や借入しやすさが異なるため、中小企業は地銀や信金の方が無難
ビジネスローン	<ul style="list-style-type: none"> 即日～2週間程度で借入可 	<ul style="list-style-type: none"> 数十万円～数千万円 	<ul style="list-style-type: none"> 即日融資が可能なケース有 無担保でも可能な会社もある 	<ul style="list-style-type: none"> 利用限度額は1億円未満で金利が高い(1%～15%など) 	
社債発行	<ul style="list-style-type: none"> 期日の設定が可能だが、法的な手続きが必要であるため、一定期間が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 条件の設定が可能だが、少数私募債など使いやすいものは1億円未満など限度あり 	<ul style="list-style-type: none"> 比較的条件を自由に設定して借入が可能。また返済まで金利等変動がない 貸主による経営への干渉がなく、保証人、担保も不要 	<ul style="list-style-type: none"> 発行時に手数料が必要 償還時に一気に返済が必要 	<ul style="list-style-type: none"> * 中小企業では1億円未満で50人未満といった制限があるが、発行先を限定した少数私募債が使いやすい
ファクタリング	<ul style="list-style-type: none"> ファクタリング会社によっては当日調達可 	<ul style="list-style-type: none"> 売掛金の範囲内 	<ul style="list-style-type: none"> 売掛金の回収リスクがなくなる 返済義務がない 	<ul style="list-style-type: none"> 金額が限定される 割引率が高めに設定される 違法業者などもおり、注意が必要 	
固定資産の売却	<ul style="list-style-type: none"> 買い取り先があれば比較的迅速に調達が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産によって変わる 	<ul style="list-style-type: none"> 遊休資産などあれば現金化することで効果的 	<ul style="list-style-type: none"> 無理に必要な資産を販売すると事業運営に支障をきたす場合も 	
増資 (第三者割当増資)	<ul style="list-style-type: none"> 時間がかかる(変更登記が必要であったり、既存株主との調整が必要) 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の資本額によって上限規制等がある 	<ul style="list-style-type: none"> 返済義務がない 資本が大きくなり、対外的に信用アップにつながる場合も 	<ul style="list-style-type: none"> 手続きが煩雑で時間がかかる 	
取引条件の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 取引先との調整が必要であり、緊急対応ができない場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 売上債権、仕入債権の範囲内 	<ul style="list-style-type: none"> 取引先の理解を得ることができれば費用はかからない 	<ul style="list-style-type: none"> 資金不足に陥っているなど取引先に懸念を与える恐れ 	
ビジネス クレジットカード	<ul style="list-style-type: none"> 数日でカード発行が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 500万円程度の限度額設定あり 	<ul style="list-style-type: none"> ポイントが付くなど別途のメリットあり 支出履歴等はカード会社が行ってくれ、管理しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 年会費が必要(1万円/月程度) 	
補助金・助成金	<ul style="list-style-type: none"> 募集期間が決まっており、緊急対応が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 募集案件に応じて設定される 	<ul style="list-style-type: none"> 返済義務がない 	<ul style="list-style-type: none"> 手続きが煩雑で、採用されなければ資金を受け取ることができない 使途が限定される 	
クラウドファンディング	<ul style="list-style-type: none"> 応募などのステップを経るため時間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> 案件に応じて金額の設定可能 	<ul style="list-style-type: none"> 返済義務がない 商品のプロジェクトなどでは消費者のマーケティングテストにもなる 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を先に公開する必要があり、模倣などが起こりうる スタートすると取りやめることができない 	